

平成 28 年度 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地
地域連絡会議 議事概要

<日 時> 平成 28 年 12 月 27 日（火） 13:00～14:00

<場 所> 城山観光ホテル アメジストホール鳳凰

<出席者> 奄美市長、大和村長、宇検村長、瀬戸内町長、龍郷町長、徳之島町長、天城町
長、伊仙町副町長、国頭村長、大宜味村長、東村長、竹富町長
(事務局関係者は省略)

<議 事> 1. 地域連絡会議について
2. 世界自然遺産推薦に向けた取組の進め方
3. 包括的管理計画（案）について
4. 地域別の行動計画（案）について
5. その他

<概 要>

議事 1. 地域連絡会議について

- 世界自然遺産の管理の実施体制、管理計画の位置づけ、地域連絡会議の役割について、事務局より説明を行った。

議事 2. 世界自然遺産推薦に向けた取組の進め方

- 推薦書提出及びその後の登録に向けたスケジュールについて、事務局より説明を行った。

議事 3. 包括的管理計画（案）について

- 包括的管理計画（案）について、事務局より説明を行った。

議事 4. 地域別の行動計画（案）について

- 地域別の行動計画（案）について、事務局より説明を行った。また、科学委員会の委員長である土屋名誉教授、副委員長である米田名誉教授がコメントを行った。

<コメント>

- 2003 年の会議で琉球諸島が世界自然遺産推薦の候補地となって以降、推薦書を作成するために様々な情報を集めてきたが、その情報量の多さと重要性はガラパゴスにも引けを取らないものである。世界自然遺産への登録は第一歩であり、その管理を地元の皆様と一体となって進めていけるよう、科学委員会、ワーキンググループで議論を行って

いきたい。(土屋名誉教授)

- 多くの絶滅危惧種が生息する素晴らしい自然が人里に近いところにこれだけ残っていて、人の生活と共存していることは、世界自然遺産として他の地域にはない初めてのことでないかと思う。この地域が登録されることはそのような価値を世界に発信するという意味を持つ。登録されれば今まで以上に人間からの負荷は増えると思うが、地域の人が一丸となって自然や文化を守っていけるような取り組みにつなげていきたい。(米田名誉教授)

〈ご質問、ご意見等〉

- 西表島の行動計画の2) 5に交通事故対策の強化の項目に関して、西表島ではこれまでも様々な交通事故対策を行ってきたが、事故件数はなかなか減らず、大変危惧している。フェンスの設置等の対策に加えて、山の中の水田を再生し、イリオモテヤマネコの食場(餌場)を確保して道路に出てこなくするような対策を検討してほしい。(竹富町長)
→関係機関と連携・協力し、イリオモテヤマネコの交通事故防止に向けてどのような対策が効果的かを検討したうえで実施していきたい。(環境省那覇自然環境事務所 西村所長)
- 包括的管理計画(案)を承認することについて、各市町村から異議のない旨のご発言があり、包括的管理計画(案)が承認された。

議事5. その他

- 各市町村長から、世界遺産登録に向けてのご発言が行われた。

〈各市町村のご発言〉

- 広範囲にまたがる地域が同じ舞台に立ったことで程よい緊張感を覚えている。これからは互いに密に連携し、各市町村が共通の思いを持って取り組んでいきたい。我々もその一地域としての責務を全うしていきたい。(奄美市長)
- 着実に手続きが進んでおり喜ばしいが、今後は地域住民の意識向上が課題である。行動計画に示された通り、受け入れ体制の充実や施設整備が今後求められる。連携を図りながら進められるよう、しっかりと取り組んでいきたい。(大和村長)
- 宇検村は92%が山林であり、その多くの部分が世界自然遺産になるということは素晴らしいことである。これまでは山からの資源で地域が潤ってきたが、これからは遺産

となった山をどう活用して地域を潤していくかということ、科学委員会の先生方や関係機関からもご意見をいただきながら進めていきたい。(宇検村長)

- 地域住民の意識に盛り上がり、欠けるところもある。登録を達成した後に住民が遺産になってよかったと思えるように、今後も関係機関と連携して取り組んでいきたい。(瀬戸内町長)
- 地域住民との間で多少の温度差があると認識している。住民意識の向上に努めるのが私達の務めであり、登録後は貴重な奄美の宝の有効な活用方法を考えることも私たちの役割である。ご意見をいただきながら活用に取り組んでいきたい。(龍郷町長)
- 徳之島では緩衝地帯が狭く、森林も分断されているという課題があり、その対策にどう取り組むべきかご指導いただきたい。野生動物が農地を食場(餌場)として利用しているという面もあり、緩衝機能のあり方をご教示いただきたい。IUCNの調査が入る時には、ポイ捨てや不法投棄の問題も解決しておくべきであり、住民の意識向上にも取り組みたい。(徳之島町長)
- 世界自然遺産登録を目指す市町村が一同に介して会議ができたことは、大変意義がある。徳之島の課題のひとつにネコの問題があり、捕獲、去勢、収容、譲渡の取組を進めている。また、山と人の生活域が近く、山が分断されていることが大きな課題であり、今後、対策に取り組んでいきたい。屋久島に加え、今回の4地域が点ではなく線となって保護や経済活動に取り組んでいければと思う。(天城町長)
- 徳之島では三町が一体となって取り組んできた。今後も関係機関とともに取り組んでいきたい。奄美も沖縄も自然と文化との繋がりは深く、文化と共生した独特の奄美・琉球の自然環境を活かしていきたい。(伊仙町副町長)
- 沖縄島北部は、9月15日にやんばる国立公園に指定されたが、世界自然遺産登録に向けての取組は始まったばかりである。国頭村の世界自然遺産対策室はいずれは推進室としていきたい。管理計画で示された計画内容の具体化が重要であり、今後も努力を続け、よい世界自然遺産をつくっていきたい。(国頭村長)
- 大宜味村は小さな村であるが、村内の2つの小学校では野鳥や蝶の研究を行っており、両校とも環境省から賞を頂いている。また、辺土名高校には全国でも珍しい環境科が設置されている。昨年は、生物多様性保全センターの立ち上げも行った。世界遺産登録に向けて地域住民に自然環境に関心を持ってもらうために取り組んでいきたい。世界遺

産登録後は来訪者が増えるので、事件、事故が起こらないよう、安全・安心を示す事が重要であり、防災消防への整備も必要と考えている。(大宜味村長)

- 関係行政機関が連携協力して、平成 30 年に世界自然遺産に登録することを目指して頑張っていきたい。(東村長)
- 各地域に文化が息づいており、文化は全て自然との結びつきが大きい。西表島を含む八重山地方では、文化や自然を大切にし、生きものを育むことを大切にしているが、世界自然遺産を目指す 4 地域の思いはみな同じだと思う。重要な自然を守り後世に伝えていきたい。特に、イリオモテヤマネコの保護には重点的に取り組んでいきたい。(竹富町長)

〈ご質問、ご意見等〉

- 米軍の北部訓練場が先日返還され、国頭村、東村ではぜひ国立公園にしてほしいと政府に申し上げているが、今後の扱いについてお尋ねしたい。(国頭村長)
→具体的なスケジュールはまだ決まっていないが、今後、地元の要望を受けて検討を進めていきたい。(環境省那覇自然環境事務所 西村所長)

以上